

小島 孝文 先生（林野庁東北森林管理局長）

略歴

昭和 62 年 東京大学農学部林学科 卒業
昭和 62 年 農林水産省入省（I 種 林学）林野庁林政部林政課
平成 9 年 九州営林局屋久島営林署長
平成 12 年 林野庁に復帰、造林保全課ほかの課長補佐等を歴任
平成 26 年 林政部 木材産業課 課長
平成 28 年 森林整備部 整備課長
平成 29 年 現職



* 今回講演『日本の森林環境の重要性と林業・木材産業について』

森林は、木材などの林産物の供給のみならず、国土保全、水源かん養、地球温暖化防止、生物多様性保全などの機能を通じて国民生活に様々な恩恵をもたらす「緑の社会資本」です。

秋田県は、スギの資源量日本一の豊富な森林資源を有しており、この資源を循環利用するシステムを確立して地方創生に結びつけていくことに大きな期待が寄せられています。国の取組を紹介しつつ、市民レベルでの期待される取組について説明させていただきます。

小杉栄次郎 先生（建築家／秋田公立美術大学教授／NPO 法人 team Timberize 副理事長）

略歴

1968 年 東京都生まれ。
1992 年 東京大学工学部建築学科卒業。
磯崎新アトリエに勤務（－2001 年）。
2002 年 KUS 一級建築士事務所を設立、（－2015 年）
2011 年 NPO 法人 team Timberize を設立、副理事長。
2013 年 秋田公立美術大学美術学部美術学科景観デザイン専攻 准教授（－2017 年）
2017 年 一級建築士事務所コードアーキテクトを設立、共同代表。
2018 年 秋田公立美術大学美術学部美術学科景観デザイン専攻 教授。現在に至る。
専門は建築・都市設計の理論と実践。
現在、木質・木造建築の新たな可能性を追求している。



作品/「芹が谷の住宅（2011）」、「赤羽の集合住宅（2014）」、「下馬の集合住宅（2013）」、ノーザンステーションゲート秋田プロジェクトデザイン監修（ウッドデザイン賞 2017 最優秀賞（農林水産大臣賞）受賞）
共著に「都市木造のヴィジョンと技術（オーム社）」

* 今回講演『まちの細部と都市の風景～市街地木質化の可能性～』について

2000 年に建築基準法が改正され、それまで大幅に制限されていた市街地での木材使用や大型木造建築の実現が可能となりました。各所でその実現に向けた技術開発など、努力の甲斐もあり新しいタイプの木造建築「都市木造」が日本各地で実現されつつあることを皆さんはご存知でしょうか。私も新しい建築材料としての「木材」が、無味乾燥な近現代の市街地の風景を変える力になるのではないかと考え、これまで「都市木造」の研究と実践に取り組んでいます。その一方で、単純に建築の材料を「コンクリート」や「鉄」から「木」に代えるだけでは、市民が生き生きと暮らす街を実現するには十分ではないとも考えています。

今回の講演では、2000 年以降の私の都市木造研究をベースに、林業県秋田において取り組んでいる市街地木質化のプロジェクトをご紹介します。「街の主役である市民のためのまちづくり」について皆さんと一緒に考えたいと思います。